

団体名	NPO法人だっぴ	活動タイトル	子ども・若者の居場所を核とした教育コミュニティづくり			
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景			
● 望ましい社会状況（ビジョン）	<p>子ども・若者が岡山県内のどこに生まれても、多様な生き方に出会い、未来を選択できることで、自分の人生を切り拓いていける地域を実現する。</p> <p>① 子ども・若者が自己肯定感をもち、様々な生き方の選択肢に出会い、自分の関心や状態にあった社会参加にチャレンジできる。 ② そうした学びや居場所の環境を整え、子ども・若者を応援できる「地域のつながり」が各市町村にある。</p>		<p>INBase 普段の様子</p>  <p>中高生が勉強や話をしている</p>			
● 団体の社会的役割（ミッション）	<p>地域のつながりを再編集し、地域の教育力を充実させる。</p> <p>① 地域の様々な大人が子ども・若者に関わる機会をつくる ② 大人同士がつながるコミュニティをつくる ③ そのコミュニティから生まれた、子ども・若者に関わる新たなアイデアをかたちにする</p>					
● 団体の活動基盤	<p>● 望ましい人的資源：その地域の人たちと一緒に1つのことを作り上げることのできるコーディネート力をもつ人材および広報・ファンドレイジングを担当できる人材。また、事業を推進する中で、事務局外の人材の成長に寄与することで、理想を現実に行える実行者を増やす。</p> <p>● 望ましい物的資源：事業で活用するスペースや食材、また物品等について、地域の企業や団体、個人からの寄付等でまかなえるようなネットワークが構築されている。</p> <p>● 望ましい活動資金：自主事業・受託事業・寄付/会費のバランスがとれた収益モデルがとれている。これによってリスクマネジメントができることに加え、必要なときに必要な事業に投資する余力のある経営基盤をもっている。</p> <p>● 望ましい情報：情報やノウハウが属人化しないことが望ましい。スタッフ1人1人がもつ情報やスキルを共有できる仕組みや関係性を整える。また、組織の外の情報（グッドプラクティスなど）もタイムリーに取得できるアンテナが必要である。</p>					
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況（まとめ）				
<p>■ 中学生・高校生だっぴ 参加者数：備前市内の中学校5校・197人、片上高校20人 備前市内全ての中学2年生を対象に中学生だっぴを実施し、学校教育課程で行われる恒例行事としての第1歩を成すことができた。</p> <p>■ 居場所づくり 来館者数1,739人（2021年10月～2022年8月の延べ数） 中高生主体の企画 17回 居場所としての活用する中高生の集団（来館者延べ1700人）の中から、自分のやってみたいことに挑戦する中高生が生まれ始めている。中高生主体の企画17回の内訳としては、定期的に中学生が企画しているスマブラ大会（計8回）や「○○について語ろう」という自分の好きなものをテーマに同じ関心をもつ中高生・大人が集まって語り合う、企画ハードルが比較的低いものもある。こうしたステップを通じて、挑戦できる心構えをつくっていく。その挑戦の連鎖によって、マルシェへの出店でハンドメイド商品を販売する中学生や町を盛り上げる音楽イベントを企画する高校生などが出てきた。</p>		<p>■ 中学生・高校生だっぴ 参加した生徒の意識変容として、「自己肯定感・自己効力感」「将来に対する期待」「地域社会への当事者意識」の肯定的回答（「とてもそう思う」「まあそう思う」回答）が全18項目で70%以上あった。</p> <p>■ 居場所づくり 中高生のINBase認知度と自己実現の経験という観点において、来館者や実施プロジェクト数は、概ね良い数値を記録することができた。 地域への愛着指標「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えようと思う」の肯定的回答は74%、居場所指標「地域に自分の居場所がある気がする」は65%だった。加えて、高校生の自己効力感（自己実現することへの自信）が高まったことも分かった。</p> <p>■ 居場所運営に関わるユースワーカーの育成 研修会や内部の勉強会を計3回実施。活動の振り返りから、INBaseで生み出したい瞬間・成果を言語化し、目標をつくることができた。また、他エリアにINBaseの事例共有を行うこともできた。</p>				
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）		
<p>■ 中学生・高校生だっぴ ・コーディネート（開催準備）にかかるタスクが整理され、譲渡可能なタスクと法人のコントロール下においておこなうタスクを分類できた。これによって、ある程度のクオリティを以てして他エリアにノウハウ移転を行える仮説が生成できた。</p> <p>■ 居場所づくり ・事業の目的が整理され、日常の運営におけるスタッフの目指すべき（中高生に対する）立ち居振る舞いが明確になった。 ・中高生が自分のやってみたいことを実現してみたり、「もしかしたら興味あるかも」と試しにやってみる行動に移っていくために、ユースワーカー側はどのような振る舞いが必要なのか少し見通しがついた。</p>		<p>■ 居場所の価値を啓発する INBaseの価値は、「居場所」と「活動」の往還によって、自分の可能性を広げていくことにある。居場所としての側面が中高生をその場に集める母集団形成の機能を果たし、その場にいるユースワーカーと信頼関係をつくり、ユースワーカーからの後押しなどのきっかけから活動に参画し、他者を巻き込んで自己実現を行っていく。 こうした居場所の価値を、エピソードや成果指標の広報によってより多くの人に伝えていき、価値を認めてもらう必要がある。そこから、行政での予算化の議論や学校教育との連携、地域の協力者が増えるなどにつなげたい。</p> <p>■ 連携によって地域の力を結集・再編集していく 地域の（コミュニティがもつ）教育力を高めていき、学校教育と相補性をもつ学校外の教育をつくる。そのためには、新たな協力者を地域に増やしていくことや既に活動している人たちと協力関係をつくっていく必要がある。</p>		この1年間の活動を通じて	延べ2,000人の中高生の「可能性の開拓」	を達成しました。
		<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>・異なる他者との出会いで、自分の世界が広がった中高生 ・繰り返し大人と関わるなかで、物怖じしなくなった中学生 ・1つの挑戦から、次ももっとやってみたいと歩み始めた中学生 若者と異なる他者・社会とのつながりが、中高生の世界を広げています。</p>				